

水質総量削減制度と本県におけるこれまでの取組について

1 水質総量削減制度の概要

水質総量削減制度は、人口、産業が集中し汚濁が著しい広域的な閉鎖性水域（東京湾、伊勢湾及び瀬戸内海）の水質を改善するため、指定地域（東京湾の指定地域は埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県の一部）からその水域に流入する汚濁物質の総量を削減するための制度です。神奈川県では川崎市全域と横浜市、横須賀市及び三浦市の一部が指定地域となっています。（図1及び図2）

この制度は昭和53年の水質汚濁防止法の改正によって導入され、以後、概ね5年ごと7次にわたり総量削減計画を策定し、対策を実施してきました。現在、法により総量削減の指定項目として化学的酸素要求量（以下「COD」という。）、窒素及びりんが指定されています。

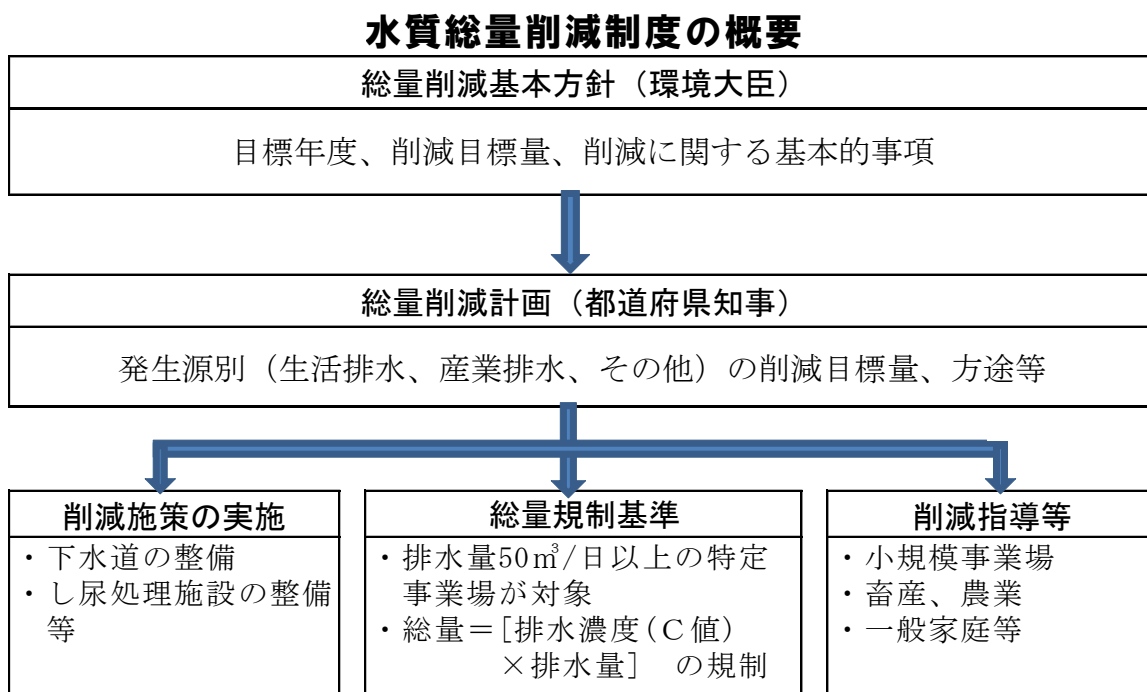


図1 東京湾の指定地域

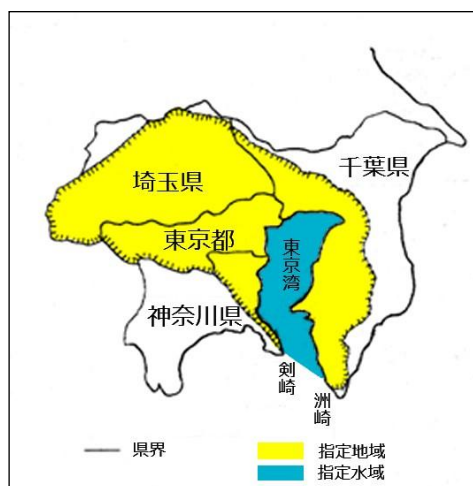


図2 本県の指定地域



2 総量削減計画に基づく本県におけるこれまでの取組

第7次計画の目標年度である平成26年度において、CODについては制度が導入された昭和54年度と比較して約7割、窒素及びりんについては平成11年度と比較して約4割、それぞれ汚濁負荷量は大幅に削減されています。(図3) 制度導入後の環境基準達成率の推移を見ると、CODについてはほぼ横ばい、窒素及びりんについては緩やかな改善傾向が見られます。(図4～6)

図3 本県のCOD等の汚濁負荷量

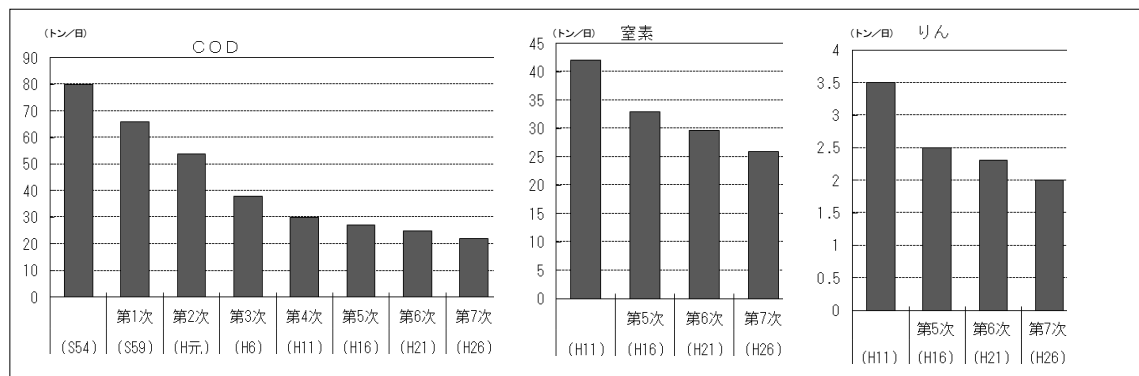


図4 東京湾におけるCODの環境基準達成率の推移

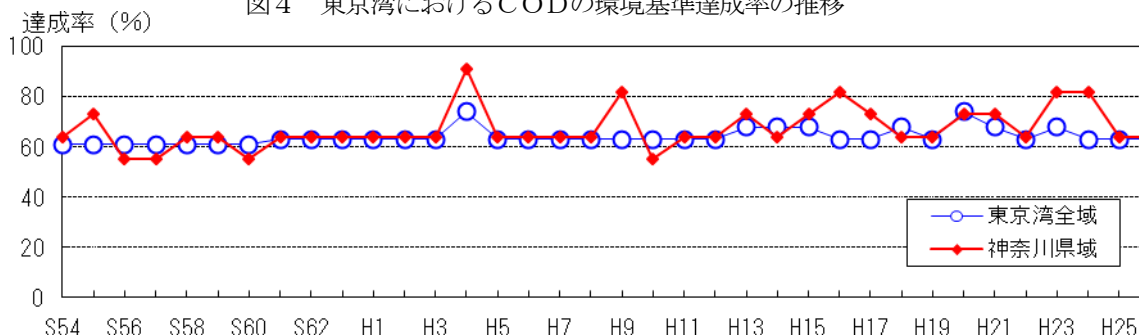


図5 東京湾における全窒素の環境基準達成率の推移

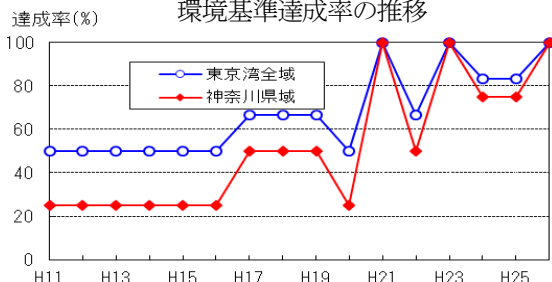


図6 東京湾における全りんの環境基準達成率の推移

